

蒼天

Volume **12**
2013.07.

京都造形芸術大学・京都芸術短期大学 瓜生山同窓会会報
編集・発行：瓜生山同窓会事務局 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
http://uniohku.or.jp

同窓会の皆さまへ

二〇一三年六月六日 京都造形芸術大学学長 尾池和夫

二〇一三年四月一日、京都造形芸術大学の第五代学長に就任しました。よろしくお願ひ申し上げます。本学は、創設者である徳山詳直理事長が高らかに描きあげた「京都文藝復興」を基本理念としています。そこに歴代の学長たちが築きあげてきた学習の場をしっかりと受け継ぎながら、さらなる発展を私も目指す所存です。

教育と研究と社会貢献の目的を果たすために、学生、教職員が一体となつて、目的を具体的に意識しながら活動することが重要です。その上に、社会で活躍しておられる同窓会の皆さまのご理解、ご支援、ご協力が何よりも大きな力となり、さらなる発展を支えます。大学の歴史が深まるとともに、同窓会の年輪も増え、社会での皆さま方のご活躍が大学へ伝わって後輩の励みとなります。

同窓会の皆さまのますますのご活躍を祈念しつつ、ときには母校に思いを寄せていただくようお願いして、私のご挨拶といたします。

師弟席

RESERVED

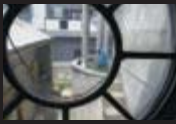
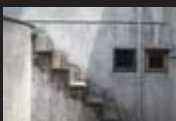
見聞き対談
渡辺豊和先生を
訪ねる



師弟席

RESERVED

見聞き対談 渡辺豊和先生を 訪ねる



◆渡辺豊和 (京都造形芸術大学芸術学部デザイン学科 環境デザインコース教授)

◆富家裕久 (京都造形芸術大学瓜生山同窓会書記、環境デザインコース一九九八年卒)

◆北村奈世 (京都造形芸術大学瓜生山同窓会庶務、染織コース二〇二〇二年卒)

◆中井芙美 (京都造形芸術大学芸術学部デザイン学科 環境デザインコース二〇二三年卒)

同窓会役員が師匠を訪ねます。

初回は環境デザイン卒業生の富家が渡辺先生の自宅に突撃訪問しました。

◆富家 先生、ご無沙汰しています。

渡辺 いまはどうされているのかと思って会報誌の取材をかねて訪問しました。

◆渡辺 あっそう。

◆富家 あと、お弁当を買ってきました、駅弁なんですけど基本的に食べながらお話できたらと思っています。すみません、選んでもらっていいですか？

◆渡辺 なにがお好きがわからへんかったの。

◆富家 これは普通の幕の内？

◆渡辺 幕の内に近いですね、お野菜が多くて、こっちはご飯がちよと多い。

◆富家 ああ、いいよ、これもうからね。

◆渡辺 (中略)

◆富家 お面だ！ お面、すごいですね。

◆渡辺 お面がすごいですね。

◆中井 ああ、面か、それ集めようと思って集めたんじゃない、たまたま買ってきただけの話で、そんないいものじゃないんだよ、安いんだよよみんな。

◆富家 これ東南アジアのやつですよ？

◆渡辺 そう、全部東南アジア、東南アジアとインドとな。

◆富家 白い顔とかいいんじゃないですか。

◆渡辺 白いのは日本よ。

◆富家 あれ、日本の？

◆渡辺 ああ、違う、インドネシア。

◆富家 ああ、インドネシアですか。

◆渡辺 バリ島や、あの白いやつだろう？ 髭のある。

◆富家 はい。

◆渡辺 (中略)

◆富家 卒業してからも建築の勉強は続けてるんですけど、先生の授業の話はいつも難解で未だに理解できてへんことがありますね。

◆渡辺 難解か。

◆富家 もう最初にシチュエルのみずうみ、小説を読んでもまず建築にするっていうところから大分混乱が始まりましたけど。

◆渡辺 そうか、お前たちはシチュエルのみずうみから始まったか。

◆富家 はい。

◆渡辺 学年によって違うからな。

◆富家 え？ そうですか。

◆渡辺 うん、みんな同じ人じゃないよ、学年によって違うよ。

◆富家 上の学年は確か、「城」ですね？ 誰の話だったかな。

◆渡辺 うん、「城」が多かっただよ、元々。「城」のほうが難しいけどな、小説としては。

◆富家 まだ、シチュエルのみずうみ、情景がはっきりわかるんで。

◆渡辺 うん、読みやすいよな。

◆富家 空間を小説の中から思い起こしてっていうのは、やりやすかったなと思うんですけど。

◆中井 その小説からイメージして？

◆渡辺 そう。

◆富家 小説を読んでな、それをイメージして。要するになんでもいいってちゅうんじゃなくて……ああ、そうか、シチュエルのみずうみっていう題でやるんだよな。

◆渡辺 はい。

◆中井 それでなに考えてもいいのよ。

◆渡辺 それで模型とかを作るんですか？

◆富家 中井さんの今の授業じゃないんじゃないですか？

◆中井 そうですね。

◆渡辺 あれはけど多分、全国で俺だけだろう、あんなことやっていたの。そういう建築関係じゃできないほうの、いまもの書いているじゃない、そのもの書くことができる人でないと無理だもん、その人じゃないとそんなこと。

◆富家 なにを題材にするかっていうのも難しいですよな。

◆渡辺 グレゴールザムザのあの「虫」っていう、あれ、誰の小説でしたっけ？

◆富家 「変身」ってやつな。

◆渡辺 ああ、変身、虫じゃないは、虫は江戸川乱歩でした。

◆富家 虫なんだけど、題は変身だよな、カフカのな。

◆渡辺 ああ、カフカ。カフカの変身、そうだ。

◆富家 お前もやりましたっけ？

◆渡辺 あれをやりましたけど、あれはもう一番僕にできなかったと思いますけど。

◆富家 できてないと思います。

◆渡辺 できてへんのちゃうの？

◆富家 できてましたっけ？

◆渡辺 うん。

◆富家 (中略)

◆渡辺 あれは短大のときはやってたんだよ、このやりかたは。

◆中井 そうなんですか。

◆富家 短大っていったってな、3年と4年がいたからさ、俺は3年と4年だけ教える役目だったから、1、2年をやる本体というのは教えなかったよ。

◆渡辺 専攻科っていうやつですね。

◆富家 そうそう、だから4年生大学と同じ連中だよな、それに教えてののについてて、やっぱり小説読ませてさ、いろいろ渡してたよ。だから変身なんかよって使った。

◆渡辺 どうな話か知ってます？ 朝おきたら自分の体



がなにか虫のような形になって、ムカデって一言もでないんですよ。それを見つけた妹にリングを投げつけられて、体にめり込むとかそういう描写だけがリアルに書かれてる。

◆中井 ムカデやなみたいな感じで？

◆富家 なんとなくムカデかな。

◆渡辺 そうするとさ、それ読ませたらどんな経過が出てくるかっていうとな、なんとなく虫っぽい感じの建物が出てくるんだよな。虫そのものじゃないけどな。

◆富家 なんかも有機的な曲線になるような。

◆渡辺 そうそう、そういう建築じゃないじゃない、そうすると短大のときもそうだけど、他大学と競争してやっていた1年に1回だけ、三大学展、お前も頃もあったやろ？

◆富家 ありますよ、四大学展って。

◆渡辺 四大学展だったっけ？

◆富家 (中略)

◆渡辺 建築だけなんですけどね、あのとき僕らの作ったやつ覚えてますか？ インスタレーション装置みたいなもの作ったの、球体作って中に入っているんな映像が窓から見えてっていう、建築じゃなかったですね、僕らがやったの。

◆渡辺 いや、建築じゃなかったっていいんだよ。

◆富家 (中略)

◆渡辺 学生のときっていうのはそうだろうな。俺はさ、短大のときからそういうやり方をしてたから、ごく普通のつもりでやってたけどさ。四大学展でいつも早慶大か短大の頃は短大が一番よかつたんだよ、群抜いてよかつたよ。だから小説を与えてやるからだと思うよ、イメージネイティブだからさ。

◆富家 絵がかかる人間が多いんですよ？

◆渡辺 うん、でもそれは大阪芸大も、それから芸大だから同じことだよな、だからうちだけができてたわけじゃないわな。課題の与え方が違ってたんだっけな？

◆富家 うん、それはそうですね、そういう抽象的な感じのものっていうのは全然。

◆渡辺 小説読ませてやるなんていうことはしないからさ。

◆富家 大阪芸大は結構いろいろ交流があったような記憶があるので、木匠塾も確か一緒にいって、そうそう。

◆富家 僕の記憶といえば、もう裸踊りをしたとかそんなし覚えてないですけどね。

◆渡辺 まあな、せやな。

(中絶)

◆富家 アルバイトに行かせてもらう時期ですね、1年生2年生は。いろいろありましたね。

◆渡辺 そうそう、それは実際に仕事してたときだから。その学校にいるときの顔、と事務所にいるときの顔が先生違うんですね。

◆富家 それはそうだろうな、それは事務所に行ったときのほうが厳しい顔してるんじゃない？

◆渡辺 それは忙しいもん、こっちもいろんなこと考えてるじゃない、だって設計事務所の親方だもんな。一番奥の部屋にね、入っていきはって手前に内田さんがいはって、そこ経由でしか会話ができないっていう状態。

◆渡辺 それはしょうがないよ、学校の先生してるときは時間が違うから。

◆富家 学生との付き合いで、俺は学生好きなんよ、でなきゃ先生なんかやってないよ。

◆渡辺 好きだからさ、好きだけじゃなくて学生と飲むのが好きだったんよな、よう飲んだな。

◆富家 いろんな事件がありましたね。

◆渡辺 そう、研究室の扉を開けたら一升瓶が並んでたんですよ。

◆富家 そうやったな、でもそんなことは、だって自分だって大学の1年生に入ったときに飲み始めたからさ、でも俺は中学校のときから飲んでた、秋田だもん、秋田は酒飲み。

◆渡辺 僕も負けじと飲みましたけど。

◆富家 そうや、そうやったな。我々も酒は勧めてるからな、やっぱり下から40、いまのお前ぐらいのときが一番強かったちゅうな。

◆渡辺 そうですね、そう思います。

◆富家 またそういう機会があれば、勿体無いと思うんです。20歳のときって全然真面目に勉強してなかったようなところがあって。

◆渡辺 でも、まあさ、授業のところなんかようけに、富家じゃなくてよく聞いてたよな。別によそ見してるっていう感じはしなかったけど、真面目だったよみんな。

◆富家 話は聞くんです、すごく耳傾けるんですけど理解できないです。

◆渡辺 そうか、でもあれは松本君が結構解説してたんだと思うの？

◆富家 そのあと、確かにそうなんです、授業が終わって終わってから研究室でお酒飲みながら注釈入れてくれるというか。

◆渡辺 松本君がうまいちゅうかな、彼がいてるあいだはよかったよ、だからすごい楽しかったんよ。

◆富家 お前の頃は松本君がおったからよかったです。お前だから大変だったよ。1人でやらんといかんから、ああいう人はいないもんね。

(中絶)

◆渡辺 芸術論っていう名前をつけてたつて。

◆富家 それでカリキュラムが、僕がね、その神秘学講座を単体でやったのはたつていう記憶が、学生の中のキョハラつていうやつがいて、気のキヤッチボールを授業中やってみせたというような話を先生が。

◆渡辺 そうや。

◆富家 そうですすね、そういう授業を僕らからではしてないなという記憶が。

◆渡辺 それはそうや、それな造形大になったときには人数多かつたら、やりにくいねん。人数少ないのと、せめて20人ぐらいでないとな、講義というの、あのときは……

◆富家 50人ぐらいおったからさ、倍以上おったかな、2年に1回しか開講しなかったし。ときには100人ぐらいいたときあったかな？

◆渡辺 そうですか。

(中絶)

◆渡辺 いいところはあつたよ、ビール飲もうか？

◆富家 いる。

◆富家 1個がビールと1個がウイスキーでした。

◆渡辺 ああ、あれな。

◆富家 はい、どうも。

◆北村 写真を。

◆渡辺 乾杯のところ写真ありますね。

◆富家 コマ目録で。

◆北村 ちょっと待ってください、はい、チーズ、いい笑顔ですね。

◆渡辺 ありがとうございます。

◆富家 いただきます。

◆中井 いただきます。

(中絶)

◆富家 先生、山口文象先生とこにいかはつたのは、なんかきつかけがあるんですか？ あそこにいこうというんか。

◆渡辺 はじめからあそこいこうと思ったんだよ。

◆富家 大阪ですか場所、東京ですか？

◆渡辺 大阪、最初から大阪、ブンキチ先生は東京やからな。東京だけど大阪の事務所も持ってたから、だからブンキチ先生のいったときに、東京に行きたいっていったら、先生はお前はこっちにくるなっていうんだよな。大阪にいてるほうが暇だから、いっぱい：それは入ってから大分経つてからよ、先生に東京で勉強させてもらえませんか？

◆渡辺 俺は忙して東京でなんかお前の相手してらんないよって、大阪にきたら一週間おつたんよ、大阪だつたらそんなに用事ないからさ、ほんとど弟子育てばつかりしてるのよ。事務所にいるわけ、ザーっと、いるとこないから。息抜きできてたんよ忙しいから大阪に、東京の人やからな、東京事務所が本所だから。

◆富家 じゃあ向こうが、先生に教えるを請うよりも仕事ばつかりしてるっていう感じで。

◆富家 最後に、なんかこう卒業生に対するちよつとメッセージみたいなとかをもらえるのとありがたいです。

◆渡辺 やつぱり学生時代からいつたことだけでも、造形大が芸大だから、建築も工学部と比較したら理想ができるわけじゃないから、やつぱり自立能力だと思っただよな。だからそのことを忘れないうことね。

◆富家 それで自分たちが芸術大学をでた美術系だつていうこと、絵がうまいってことをね、それを基本にして長い生き生きしたいと工学部のやつに勝てないもんね。

◆渡辺 勝つていか負けたら悔しいやんか、勝つ必要はないかもしれんけど、引き分けでもいいからせめて同等で勝負したよな。

◆富家 勝負するのは理数では勝負できないから、それは彼らのほうができるんだから。でも絵がうまいからさ、絵がうまいってことは単に絵を書くのがうまいってことじゃなくて、そういうセンスがあるわけ。

◆渡辺 要するにデザインセンスがあるわけだから、それは間違いなく優れてるはずだから、そういう自分たちの得意な部門を確立して、それを美術としての建築だけ、それを忘れずにやって欲しいってことかな。

◆富家 それは一貫して、お前たちにそうやって教えたよな？ 一貫して教えたよな。

◆渡辺 そうですね、そこは忘れんようにと必ず思つて、絵は書かんと駄目ですね。理屈でやったりとかは駄目ですね。

◆富家 理屈は駄目なことないよ、理屈はやっていいけども、ただ穴があく、なにが得意かっていったらやつぱり表現だよな。表現力で絶対俺らが勝つて思つてやればいからな。

◆渡辺 そうですね、新築とか改修の町家の絵でも、ちゃんとプロポジションよく格好いように。

◆富家 そう。

◆渡辺 心がけてやりますね。

◆富家 そうそう。

◆渡辺 それでは先生、ありがとうございます。

◆富家

◆渡辺

◆富家





昨年度の納涼企画での様子

瓜生山同窓会 総会告知

平成 25 年度 瓜生山同窓会総会

【第一部・総会】

日時：2013年7月28日(日) 11:00

場所：人間館NA409教室

内容：会計報告、事業報告、予算案、事業計画、会則改定等

【第二部・納涼企画、亀岡 保津川下りと嵐山で懇親会】

15:00 保津川下り

17:30 懇親会

【総会スケジュール】

10:30 総会受付開始

11:00 総会

12:30 一旦解散、各自昼食

13:30 学校前階段下に集合完了

13:45 学校前発

14:45 船着場着

15:15 乗船、離岸

17:15 嵐山着

17:30 懇親会（詳しくはHPにて）

【参加申込と参加費用】

申込締切：7月18日必着

参加費用：6,000円

※申込用紙に必要事項を記入し、FAX またはメールにて送信下さい。



瓜生山学園 オリジナルストラップ 「しょうちやく君」

情熱満ちあふれる瓜生山学園創設者、徳山詳直理事長の姿が株式会社海洋堂との産学連携企画により精巧に再現、ミニフィギュアに！ AD Storeでしか入手できない学園オフィシャルグッズです。AD Storeにて販売中¥300-



「いいね!」してくださいね♡
FB 始めました。
<https://www.facebook.com/uridou>

瓜生山同窓会では同窓会をより身近に感じてもらうためまた情報発信の利便性を上げる為、無料SNS「Facebook」でもページを作成しました。上記のURL又はQRコードより開くことが出来ます。また既存の公式サイト「瓜生山同窓会」もご活用ください。

<http://uridou.jp/>

編集 後記

2013年度も無事「蒼天」を皆様にお届けすることができました。いよいよ千支も一回りするVol.12の刊行ですが、今回は大幅に誌面を変更してみました。初のカラー刷り、初の観音折りです。Vol.11で反響が（一部で）大きかった師弟対談、今回から「師弟席」というタイトルも冠し、恒例コンテンツとしていきたいと思っています。もちろん「蒼天」の誌面だけでなく開催事業も新機軸を打ち出し続けていきますよ！今年度もよろしくをお願いします！

瓜生山同窓会会長 菱田太郎

朝食始めます！

詳しくは中を見てね！

たっぷり太陽浴びて、朝ごはん食べて授業に出よう！
その名も【朝からいただきますプロジェクト】
ちょっと早起きして
学長と朝ごはんを食べませんか？
素敵なプロジェクトが月・水・金ついに始動。
なんと瓜生山同窓会が無料招待☆
さあ、素敵な朝の始まり！先着10名様！
早いもの勝ちな朝！
お友達誘って、急げ☆★

